

森の恵みに感謝しよう

中山中学校で森林体験学習

昨年12月に中山中学校が、全校生徒を対象に森林環境保全税を活用して森林体験学習を行いました。これは森林をみんなで守り育てる心を養うこと、学習を通じて関心を持ち、森林づくりに参加していくことを目的に行われました。

講師は大山自然歴史館館長の矢田貝繁明さん。森の働きや森林がもたらす恵みに感謝して私たちにできることは何かを中学生に説明しました。



▶ 森林の働きについて説明する
矢田貝館長

また、(一財)日本きのこセンター所長代理の西澤則之さんの指導でシイタケの植菌体験も行いました。生徒たちはドリルで木に穴を開け、種菌を植え付けました。植えたのはジャンボシイタケの鳥取茸王。順調にいけば今年の秋頃には、収穫できる予定です。生徒たちは「はじめて知ることもあり、勉強になった」「植菌体験は大変だったが、収穫が楽しみ」と興味深そうでした。



▶ 中学生が植菌作業を体験

ことぶき学級(名和公民館)で『園舎見学と交流会』

名和公民館の『ことぶき学級(高齢者学級)』が、1月21日(水)に名和さくらの丘保育園を訪れ、園舎の見学と交流会を行いました。

学級の参加者は78人で大半が初めての訪問でした。新しい園舎に目をみはり、安全にのびのびと活動できるよう園内のいたるところに創意工夫がなされていることに感

心されていました。

交流会では、年長組が元気いっぱい踊りを披露。また、『わらべうた』にあわせて肩たたきなど園児とのふれあいタイムもありました。

ことぶき学級の皆さんの心も顔もすっかりほころんで、遊戯室は笑顔と笑い声に包まれました。



▶ わらべうた「肩たたきのうた」を一緒に

園児が陶芸を体験

抹茶茶碗の寄贈も

町内保育園の園児たちが陶芸家・長井宣里庵さん(羽田井)のご厚意で、陶芸体験をしました。長井さんは、粘土の寄贈だけでなく、各保育園に出向いて園児に制作指導もしてくださいました。

園児が作ったのは、今年の干支、「未」の置き物です。のびのびと自由に未の制作をする子どもたちの発想を大切にしながら「子どもの作品は、割れてはいけない」と細

心の注意を払ってくださいました。

また、1月には長井さんから、各保育園へ抹茶茶碗の寄贈もありました。長井さんは各保育園を何度も訪問して、園のイメージや園児の様子、職員の思いなどを聞き、各園それぞれに合う抹茶茶碗を作ってくださいました。

長井さんの熱い想いを子どもたちに伝えるため、各園では「お茶会」など計画しておいしいお茶を点てたいと話しています。



▶ 優しく声をかける長井さん(右)